

蒲郡市男女共同参画情報紙

はばたき

特集●ワーク・ライフ・バランスの
推進について

「仕事と生活の調和」を目指して



蒲郡男女共同参画川柳 入賞作品

- 〔最優秀賞〕 「一本の 大樹の根元 みな同じ」
- 〔優秀賞〕 「母留守で 父の手料理 十八番カレー」
- 「協力で 1たす1が 3になる」

第23号
2013.3

ワーク・ライフ・バランスの推進について

～仕事と生活の調和を目指して～

「日本の将来推計人口（2006年12月推計）」によると、2055年には合計特殊出生率は12.6、高齢化率は4割となり、人口は9,000万人を下回ると推定されています。労働力人口が減少し、働き方が多様の現代にとって、一人ひとりがやりがいや充実感をもって働き、家庭や地域生活などにおいても、個人の人生の各段階に応じて多様な生き方が選択、実現できることが求められています。

ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）は、「仕事」と家事・育児・介護、地域活動やボランティア活動、趣味や学習などのあらゆる個人的活動を含む「仕事以外の生活」との調和がとれ、その両方が充実している状態をいいます。ワーク・ライフ・バランスを推進することは、個人にとっても企業にとっても、ひいては社会全体にとってもメリットがあります。



なぜ、仕事と生活の調和が必要なのか？

①仕事と生活が両立しにくい

- ・安定した仕事に就けず、経済的自立ができない
- ・仕事に追われ、心身の疲労から健康を害しかねない
- ・仕事と子育てや介護との両立が難しい



②共働き世帯の増加と変わらない性別役割分担意識

- ・共働き世帯が増える一方で、働き方や子育て支援などの社会的基盤が対応していない
- ・職場や家庭、地域では、相変わらず男女の固定的な役割分担意識が残っている。

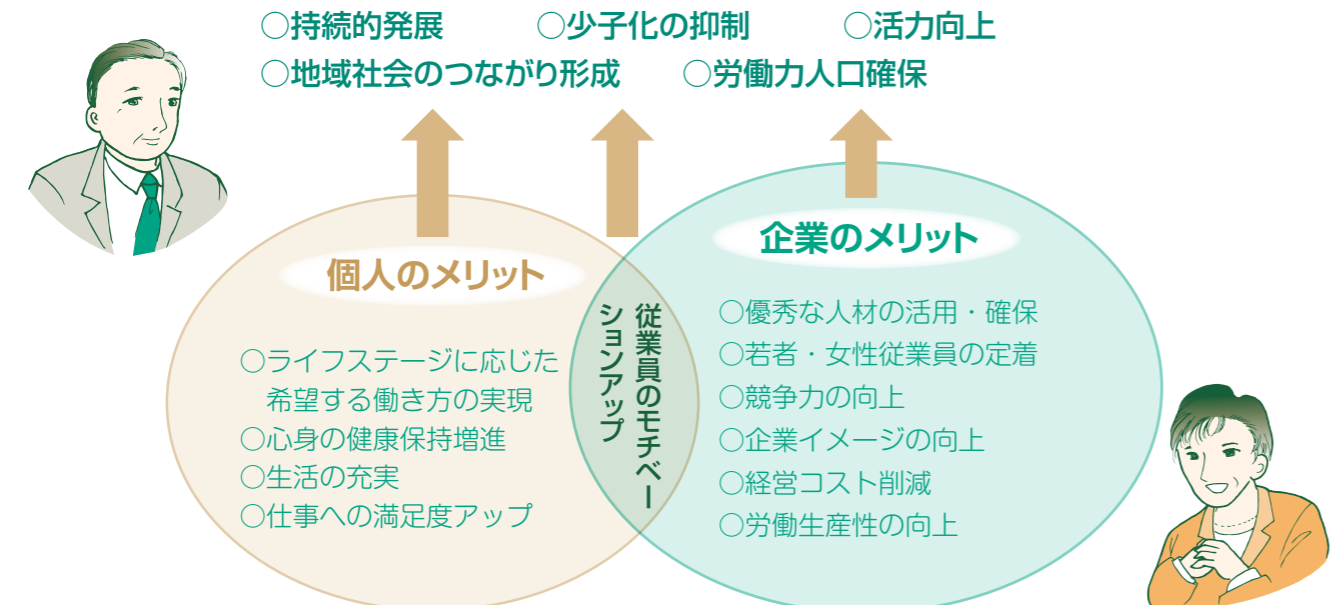
③仕事と生活、家族と地域社会の変化

- ・人口減少時代の今、女性や高齢者の就業参加が不可欠だが、働き方や生き方の選択肢が限られており、多様な人材を活かすことができない。

⇒仕事と生活の調和が実現した社会が必要

- ①経済的に自立し、結婚や子育てに希望が持てるように経済的基盤の確保
- ②働く人の健康と家族との時間、地域活動への参加など豊かな生活ができること
- ③だれもが様々な働き方や生き方ができ、子育てや介護など個人の状況に応じて多様で柔軟な働き方が選択できる社会が必要。

ワークライフバランスの推進による社会全体のメリット



イクメンからのメッセージ

～子どもと一緒に笑ってますか～

11月11日（日）、男女共同参画サテライトセミナー「イクメンからのメッセージ」を開催しました。仕事だけでなく、育児にも積極的に関わる“イクメン”パパでもある横井さんから、子どもとの関わりや仕事と生活の調和についてお話を伺いました。

講師：社会保険労務士 横井寿史さん

【プロフィール】 NPO 法人 Bit(ビットル) 理事長、NPO 法人ファザーリングジャパン理事、名古屋市男女平等参画審議会委員、あいちワーク・ライフ・バランス推進協議会有識者など、本業以外に男女共同参画に関連したさまざまな活動がされています。

結婚前の考え方

- ・「男は外で働いてお金を稼ぐべき」
- ・「仕事から帰ってきたら妻が食事を作って待っていてほしい」
- ・「小さいうちから子どもを保育園に入れるのはかわいそう。3歳までは母親が育てるべき」

結婚後は…

- ・三食すべてを作り、その他の家事は気づいた方がやる
- ⇒ああすべき、という価値観に囚われ過ぎていた。夫婦は協力しあうことが大事。今まで当たり前とされてきた価値観は絶対ではない。柔軟な考え方や生き方がこれからの世の中には必要ではないかということに気づいた。

現代の仕事・子育て

- ・労働力人口の減少。
- ・教育コストの増加。給料が上がらない。
- ・うつ病等のリスク。
- ・男性は仕事漬けで、家族や地域との関係が持てない。
- ・母親が子育て、家事、労働を一人でこなしている。

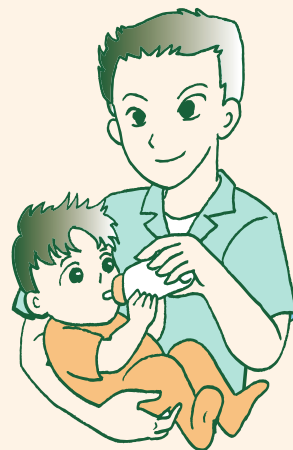
ワーク・ライフ・バランスが大切

- いじめ、ニート、ワーキングプア、子ども虐待、メンタルヘルス、年金問題など不安感が増大
- ・仕事や家事、育児、趣味、地域活動、運動、遊びなど全てをひっくるめたものがライフ=人生。

イクメンが社会を変える！

調査によると、「男性の方が優遇されている」と感じている人は女性 73.6 %、男性 61.4 % と男女ともに高い数値。男性が変わらなければ世の中は変わらない。育児はあくまで入口であって、そこから地域や企業に広がりを見せていくことで、男女ともに生きやすい社会となる。子育てに関わって、子どもの成長を実感し、地域とのつながりの大切さが分かり、友達が増え、そして仕事のメリハリがついたことなどが個人的に感じているメリット。希望なき長時間労働からは何も生まれない。自分がどういう人生を送りたいのか強い動機をもって、ワーク・ライフ・バランスを進めてほしい。

「イクメンからの メッセージ」を受講して



日時 平成24年11月11日（日） 午後1時30分～3時

参加者 26人（男性18人、女性8人）

● 受講者のみなさんの感想・意見（抜粋）

- ◎「～しなければならない」というよりも「～したい」というのが良かった。（30代男性）
- ◎自分は時間の使い方が下手だと思う。セミナーをきいて、家族や自分の人生のために、時間の使い方、生活の中で仕事がジャマにならないようにしたい。（40代男性）
- ◎最近子どもが生まれ、育児について興味を持てるようになった。一方で仕事と家事、育児とのバランスについてなんとなく不安を抱えてきているような気がしていたが、その不安が解消されたように思う。ありがとうございました。（20代男性）
 - ◎イクジイ*の話を聞いて、自分も孫のためにやってみようかなと思った。（50代男性）
 - ◎子育て、家族に対する考え方として、非常に参考になる話がきけたと思う。（30代男性）
 - ◎子どもが産まれたばかりなのでとても参考になった。夫と一緒に子育てを楽しみたいと思う。（20代女性）
 - ◎面白いお話しだった。ワーク・ライフ・バランスは家族（妻）と話してみようと思う。（30代男性）



*イクジイ…育爺。孫育てに積極的に関わる中高年の男性のこと。

編集後記 Editor's note

イクメン、イクジイと言う言葉が定着してきたように感じます。皆さんの周りにはいらっしゃいますか。子どもの定期健診にお父さんが一緒に参加されることも増えてきました。家事や育児を夫婦2人で協力し合うことはとても大切です。また、子育ての重要なキーパーソンになりつつあるイクジイの方たちが自分の培ってきたスキルや人生経験を、自分の孫だけでなく地域の子どもたちと関わることで発揮していただけたらとてもすばらしいと思います。蒲郡でそんなイクジイが増えることを期待しています。

はばたき 第23号

2013.3

ご意見・ご感想をお寄せ下さい。

発行／蒲郡市 文化スポーツ課

編集／「はばたき」編集委員

〒443-8601 蒲郡市旭町17-1

■TEL 0533-66-1167 ■FAX 0533-66-1199

■Eメール bunspo@city.gamagori.lg.jp